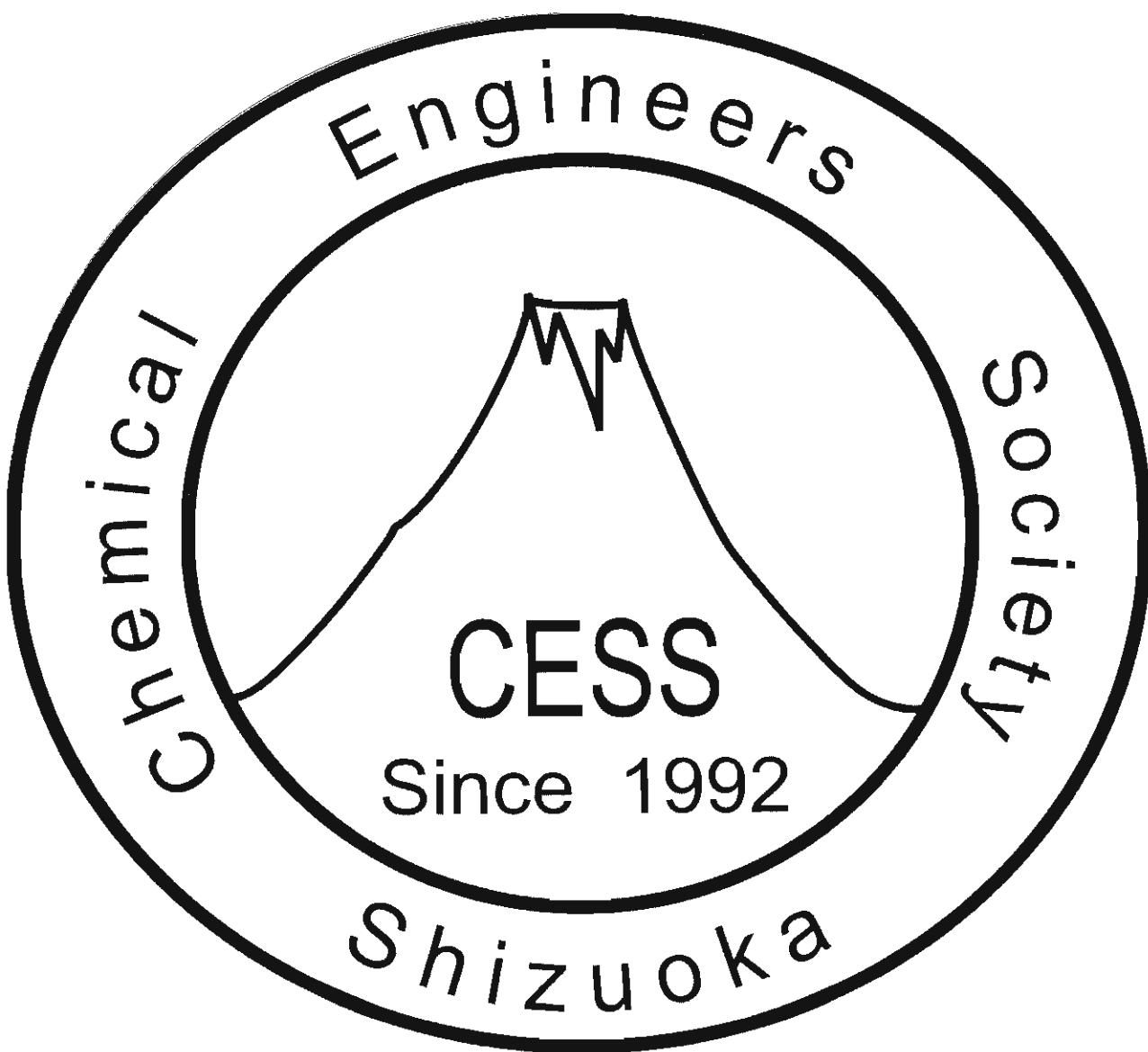


静岡化学工学懇話会

会報

第18号



目 次

会長に就任して	
静岡化学工学懇話会 会長 須藤 雅夫 (22、23年度) ······	1
平成 21 年度事業報告 ······ ······ ······ ······ ······ ······	2
第 38 回静岡コロキウム「健康」顛末記 ······ ······ ······	5
第 17 回静岡フォーラム・第 42 回研究交流セミナー 「バイオの世界をのぞいてみたい — 最先端の研究を題材に —」顛末記 ······ ······	8
第 18 回企業技術交流会「地域から発信する技術開発」顛末記 ······	11
第 39 回静岡コロキウム「環境への取り組み」顛末記 ······ ······	14
平成 22 年度事業計画 ······ ······ ······ ······ ······ ······	16
元会長 吉永勝也様 逝く ······ ······ ······ ······ ······	18
会員企業ルポ ······ ······ ······ ······ ······ ······	19
静岡化学工学懇話会ホームページ紹介 ······ ······ ······	21

(付：入会のご案内、入会申込書)

編集後記

会長に就任して

静岡化学工学懇話会

会長（平成 22、23 年度）

須藤 雅夫



静岡化学工学懇話会は、平成 4 年に設立して以来、数えてみると平成 22 年で 19 年目に入るので、気が早いが平成 23 年度に 20 年目を迎える。設立の時のメンバーは、飯塚前会長、脇屋元会長、村松氏、河合氏などになった。もともと（社団法人）化学工学会の会員増強活動の一環として、東海支部の中で会員の多い静岡で組織が作れないかとの意向を受けて設立した。東海支部幹事の中野義夫先生と須藤が、鹿児島大学の高橋先生、幡手先生を訪ねてもっとも活発に活動を実施していると思われた南九州化学工学懇話会の実際の活動と運営方法を伝授頂いた。少しだけ見栄をはって、A4 版の会報を作成した。静岡化学工学懇話会の名称も簡単ではなかった。静岡地方にして、豊橋、三河地方も活動してほしいというのが東海支部執行部の意向であった。静岡県は浜松から御殿場まで横に長く、愛知県東部までは活動出来そうもなく、現在の名称と活動エリアになっている。これまで、節目節目で学会を開催することができた。1992 年には、化学工学会浜松地方大会、2000 年 9 月には、化学工学会第 30 回秋季大会、2008 年には、化学工学会第 73 年会を開催してきた。この実行部隊として、静岡化学工学懇話会の幹事および会員が活躍した。

昨今は、「事業仕分け」とか「法人改革」とかが盛んである。静岡化学工学懇話会に天下りはない。本体で実施可能なことを、わざわざしていないか？そんなこともないだろうと思う。ここで静岡化学工学懇話会のビジョンとミッションは何かを再考してみる。

ビジョン：静岡県地区での産官学の交流の促進と活性化。

幅広い異業種の分野での人材交流。

ミッション：静岡フォーラム（ホットなテーマの講演会）、静岡コロキウム（討論会）、企業技術交流会（企業での開発技術の紹介と交流）、見学会を県内東部、中部、西部で開催している。

静岡化学工学懇話会は、20 年前には学会に入会しないと情報が得られない時代であり、化学工学会の御旗の下での勉強に役立つ企画を県内で立案でき、また静岡から発信できるという点で貴重な活動であった。世の中のグローバル化とともに、瞬時にタイムリーに情報が得られ 20 年前ほどの価値は、現在はない。化学工学会は、研究と教育を中心とした部会制度を設置し、支部、懇話会活動を「仲良しクラブ」的な位置づけとしている。しかし、バインダー的な仲良しは必要であり、縦横のつながりこそは重要である。さらに、地域貢献に懇話会が役に立たないかを検討したい。地域での化学工学、科学技術の啓蒙や地域での技術開発などに連携出来るはずで、そのための仕組みを始めたいと考えている。

以上

平成21年度事業報告

主催行事：

(1) 役員会、総会

日 時：平成21年5月27日（水）

会 場：静岡県工業技術研究所（静岡市）

内 容：事業・会計報告及び承認。事業計画・予算案の審議及び決定

参加者：46名

(2) 第38回静岡コロキウム

テーマ：健康

共 催：化学工学会東海支部、静岡県工業技術研究所

日 時：平成21年5月27日（水）

会 場：静岡県工業技術研究所（静岡市）

内 容：講演4件

（「旧東海道・中山道を歩く」

元化学工学会事務局長 升谷 正宏 氏 他4件）

参加者：46名

(3) 第17回静岡フォーラム

化学工学会東海支部第42回研究交流セミナーとの共同主催

テーマ：バイオの世界をのぞいてみたい — 最先端の研究を題材に —

協 賛：静岡大学イノベーション共同研究センター協力会

日 時：平成21年10月16日（金）

会 場：アクシティ浜松コングレスセンター43会議室（浜松市）

内 容：講演5件

（「複合系バイオフィルムの生態学的構造と機能の解析」

北海道大学 岡部 聰 氏 他4件）

参加者：40名

(4) 第18回企業技術交流会

テーマ：地域から発信する技術開発

共 催：化学工学会東海支部、浜松工業技術支援センター

日 時：平成21年12月7日（月）

会 場：静岡大学浜松キャンパス佐鳴会館（浜松市）

内 容：講演7件・ポスター・製品展示7件

参加者：76名

(5) 役員会

日 時：平成 21 年 2 月 19 日（金）

会 場：旭化成富士支社

内 容：役員人事、事業・会計報告及び承認。事業計画・予算案の審議及び決定

(6) 第 39 回静岡コロキウム

テー マ：環境への取り組み

共 催：化学工学会東海支部

日 時：平成 21 年 2 月 19 日（金）

会 場：旭化成富士支社

内 容：講演 3 件

（「旭化成ケミカルズの水処理用膜モジュール紹介」

旭化成ケミカルズ 橋本 知孝氏 他 2 件）

ヘルハウス研究所 見学

参加者：45 名

出版事業：

(1) 第 17 号会報発行（平成 21 年 5 月 27 日）

共催・協賛・後援行事：

(1) 第 12 回「リフレッシュ理科教室」

主 催：社団法人応用物理学会、浜松市教育委員会、浜松科学館

日 時：平成 21 年 5 月 29 日（金）、30 日（土）

会 場：浜松科学館（浜松市）

(2) 第 33 回基礎化学工学演習講座

主 催：化学工学会東海支部

日 時：第 1 コース 平成 21 年 6 月 24 日（水）から 26 日（金）

第 2 コース 平成 21 年 7 月 1 日（水）から 3 日（金）

会 場：名古屋市工業研究所（名古屋市）

(3) 静岡大学サテライト講座

主 催：化学工学会人材育成センター

日 時：化学プロセスの安全評価と安全設計 平成 21 年 9 月 24 日（木）、25 日（金）

水質汚染防止・廃棄物処理とリサイクル 平成 21 年 9 月 28 日（月）、29 日（火）

場 所：アクティティ浜松 研修交流センター（浜松市）

- (4) 第39回石油・石油化学討論会
主 催：石油学会
日 時：平成21年10月22日（木）、23日（金）
会 場：アクトシティ浜松（浜松市）
- (5) 静岡県資源環境技術研究会創立40周年記念講演
主 催：静岡県資源環境技術研究会
日 時：平成21年11月6日（金）
会 場：クーポール会館（静岡市）
- (6) 第43回化学工学の進歩講習会
主 催：化学工学会東海支部
日 時：平成21年11月12日（木）、13日（金）
会 場：中部大学名古屋キャンパス（名古屋市）

第38回静岡コロキウム 「健康」 頭末記

第38回静岡コロキウムが、平成21年5月27日（水）に静岡県工業技術研究所（静岡市葵区牧ヶ谷2078）で開催されました。今回の主題は「健康」でした。最初の講演の部では、「旧東海道・旧中山道を歩く」というテーマで、元化学工学会理事・事務局長の升谷正宏氏からご講演を頂きました。つぎに、静岡県工業技術研究所のビデオ紹介があり、その後同研究所食品環境科で受け持つ三テーマの研究紹介がありました。テーマと講師は次のとおりです。①「静岡発 世界を結ぶ新世代茶飲料と素材の開発」食品スタッフ 研究主幹 鈴木敏博氏、②「高齢者の自立を促進する医食工連携による誤嚥性肺炎の総合的な予防」えん下改善プロジェクトスタッフ 主任研究員 杉山直人氏、③「小規模バイオガスプラントと天然ガス併用型燃料電池発電システム導入に関する実証試験」環境スタッフ 副主任 酒井 奨氏です。恒例のごとく、コロキウム終了後は、「銀座ライオン」（静岡駅ビル内）にて交流会を行いました。以下、所感も含めながら内容を振り返ってみます。

升谷氏のご講演では、旧東海道と旧中山道の様子を、美しい写真と絶妙な語りで紹介して頂けました。同氏は、両街道を完歩（総距離約1,000km）され、健康の気になる中高年諸氏にとっては、正に勇気を与えてくれる人生の鑑のような存在でした。江戸時代に入り五街道が整備され、あちこちに宿場が成り立ちました。両街道も主要な交通路として、重要な役目を果たしてきました。今でこそ幹線路は移り変わりつつありますが、ところどころに旧街道の面影が残り、当時を忍ばせてくれます。各地の歴史や文化を尋ねながら、のんびりと散策してみるのもいいでしょう。それで、心と体がリフレッシュできるのであれば、こんなに素晴らしいことはありません。私もさっそく、チャレンジしてみようと思っています。

さて、当研究所で進めている研究紹介のうち、①「静岡発 世界を結ぶ新世代茶飲料と素材の開発」は、(独)科学技術振興機構(JST)の地域結集型研究開発プログラムに採用されています(研究期間H21.1～H25.12)。静岡県はもちろん緑茶の生産量・販売量ともに全国一です。さらに、次世代茶飲料を指向するためには、新しい切り口も必要になってきています。この研究では、カテキンの健康機能に注目するとともに、美味しく、茶の香りを大切にした茶飲料の開発と応用製品化を目指すものです。産学官の協力体制のもとに、静岡県で進めるフーズサイエンスヒルズのよりいっそうの充実を図ります。②「高齢者の自立を促進する医食工連携による誤嚥性肺炎の総合的な予防」は、嚥下機能の総合的な予防対策を図る研究です。肺炎は我が国の死亡原因の4位に相当し、特に高齢者の誤嚥性肺炎が増え、重要な課題となっています。本研究は、静岡県のプロジェクト研究に指定され、H20～H22の間に集中して問題解決を図るもので、嚥下反射を改善する予防食品の開発、口腔内細菌叢の質的改善、不顕性誤嚥を早期発見することや胃食道逆流を検知するシステムの開発、嚥下機能を改善するリハビリテーション技術の研究などを、医食工連携の下に進めています。ここ

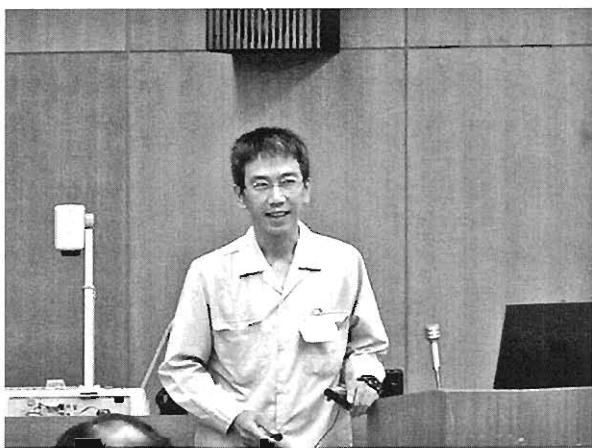
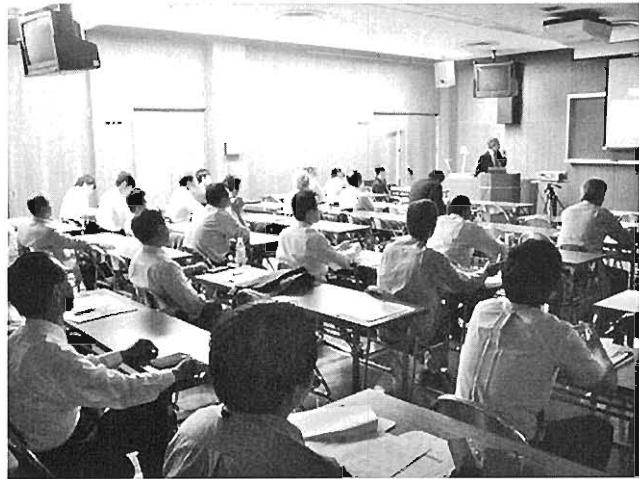
では、それらの研究の一例が紹介されました。③「小規模バイオガスプラントと天然ガス併用型燃料電池発電システム導入に関する実証試験」では、(独)新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)助成の下、H17~H21に掛けて行なわれているバイオマス等未活用エネルギー実証試験事業です。静岡市北部学校給食センター隣接地にプラントを設置し、フィールドにおいて連続試験を実施しています。ここでは、給食センター由来の生ゴミからメタン発酵法によってバイオガスを取り出し、ガス精製した後に天然ガスと混合して水素に改質し、燃料電池(PEFC)で発電するコジェネレーションシステムを稼動させてています。今年が最終年度に当たり、これまで培った技術をさらに発展できればと考えています。

以上のように、今回のテーマは「健康」ということでした。多忙なことを言い訳に、とかく自分の心と体の健康を疎かにしてしまいかがちですが、仕事と健康をバランスよく維持していくことの大切さを、身にしみて感じたコロキウムであったと思います。

最後に、本コロキウム開催にあたり、ご協力頂いた静岡県工業技術研究所の皆様にお礼を申し上げます。

(静岡県工業技術研究所 松本 豊 記)





第17回静岡フォーラム・第42回研究交流セミナー 「バイオの世界をのぞいてみたい－最先端の研究を題材に－」顛末記

平成21年10月16日（金）に、アクトシティ浜松（浜松市）において、「バイオの世界をのぞいてみたい－最先端の研究を題材に－」と題して交流セミナー・静岡フォーラムが開催されました。その心は、馴染みが薄いものの気になる領域の一つである「バイオ」を取り上げ話を聞いてみよう、ということで準備が進められました。

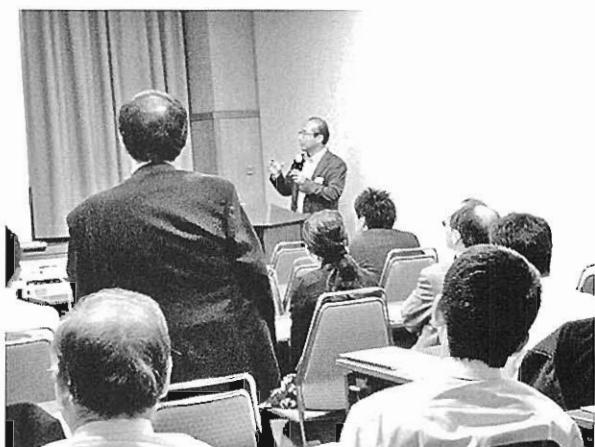
最初に開会のご挨拶を飯塚弘会長より頂いた後、早速講演となりました。まず、北海道大学工学部の岡部聰博士より「複合系バイオフィルムの生態学的構造と機能の解析」と題して、効率的な廃水処理に際して重要な窒素循環に関わる微生物群集に関する研究紹介を頂きました。特にアンモニウムと亜硝酸窒素から直接窒素ガスへ代謝できる Anammox（嫌気的アンモニア酸化細菌）と呼ばれる新規微生物群は今後の実用化の普及も含め、大変興味深い内容でした。次に、豊橋技術科学大学エコロジー工学部博士課程の鈴木宏道氏から「細胞外にDNAやRNAを放出する細菌－その生理学的意義と応用」と題して、現在取り組んでいる博士論文研究の紹介を頂きました。質疑では、「なぜ(大切な)DNAを放出しているのか？」といった質問が出るなど大いに白熱しました。現時点では、医療への応用も期待されているとのことでした。午後からは、経済産業省の木村信忠博士より「クオーラムセンシングを阻害する微生物・遺伝子の探索」と題し、留学の話題を含めながら新規の知見や手法の紹介を頂きました。微生物同士がある化学物質を介して情報伝達を行っていること、またそれらの物質を人工的に合成し病原菌の抑制に使用されるなど、その仕組みに興味が持たれると同時に今後の応用が期待されます。次に岡山大学農学部の金原和秀博士から「環境細菌の生き様を探る」と題し、環境中に生息している無数の微生物の中からPCB分解微生物の単離と解析ならびに実用化プラントでの処理までの一連の研究や、微生物細胞を蛍光染色し直接その生き様を観察する技術の紹介を頂きました。土壤抽出液を加えた培地では、成長を停止してしまう微生物が意外と多いことが示され、先の木村博士の講演内容と合わせ、微生物生態系の複雑さと面白さを感じることが出来ました。最後に東京大学の渡邊一哉博士から「メタン発酵共生系の進化と生存戦略」と題し、21世紀は環境の時代でありバイオテクノロジーによって環境やエネルギー問題を解決していくことの重要性と可能性をメタン発酵の研究を事例に紹介して頂きました。メタン発酵の高効率化を目指した発酵槽内における微生物の研究から、メタン生成細菌との共生関係開始には鞭毛が物理的にもシグナルとしても重要な役割を担っていることが示されました。この共生関係を人間関係に比喩されるなど、大変興味深くまた専門外の参加者にとっても楽しい発表でした。

講演後、講師の先生方を交えた懇親会を開催しました。いつものように大盛り上がり多くの会員と情報交換を行うことが出来ました。最後に、大変お忙しいにも関わらずご講演

して頂きました講師の先生方ならびに多くの参加者の方々に、この場を借りまして改めて御礼申し上げます。

(静岡大学工学部 二又裕之 記)





第18回企業技術交流会

「地域から発信する技術開発」 頭末記

第18回企業技術交流会は、12月7日（月）に静岡大学浜松キャンパス佐鳴会館を会場に76名（うち学生39名）の参加者をもって開催されました。本会では、地元企業の自慢の技術を紹介していただき、会員同士で情報交換するとともに、学生に地元の企業を知ってもらうことをメインテーマとして開催されました。

出展企業は7社をかぞえ、講演だけで3時間が割かれました。ポスターおよび製品展示は1時間強では回りきれないほどでした。キヨウエー様は「試験室の耐震化」として起振台を持ち込んで実演され、東海地震への備えを説いていただきました。浜松工業技術支援センター様は「レーザーによる纖維への微細カラーマーキング」として髪の毛ほどの纖維にマイクロ文字をレーザーで印字する技術を紹介していただきました。中央発明研究所様は「真空と含浸技術」と題して実機を持ち込んで、アルミダイキャストのわずかな隙間に高真空中から加圧させることにより含浸させ、強度を向上させる技術を紹介いただきました。アイセロ化学様はバイオマス由来の製品で「包む」ことでさまざまな機能を発現する「バイオマス製品Bipro/ビプロ」を紹介していただきました。村松風送設備工業様は「高含水率バイオマス廃熱乾燥」として、これまで有効に活用できていなかったバイオマスを、プロセス改善によりエネルギーとして活用する技術を紹介していただきました。フロイント産業様には「造粒・コーティング技術」として、「粒」を作る様々な技術を紹介いただきました。サッポロビール様は「機能性食品に適したマイクロカプセル」として、マイクロカプセルの製造法をご説明いただき、マイクロカプセル化することにより劣化を防げることや、食感を損なわないことなどをご説明いただきました。いずれも自社開発された珠玉の技術であり、大変興味深いものばかりでした。学生にとっても実物を目の当たりにし、技術者から直接話を聞くことで非常に有意義であったことがアンケートに書かれていました。

第1部終了後、ポスター会場にて懇親会が開かれました。数名の学生を含めて40名近くが参加しました。ポスターおよび製品展示の1時間では議論しつくせなかつたこともなり、あらゆるところで活発に議論されていました。少し予定より早い段階で盛況のうちに閉会となりました。

出展いただいた企業の方々には発表資料、ポスター、展示物などさまざまな準備を強いたため多大な労力をかけてしましましたが、出展いただいた方々、参加していただいた方々にとって有意義な会であったならば幸いです。

(文責 静岡大学 武田和宏)





第39回静岡コロキウム 「環境への取り組み」 頂末記

平成22年2月19日、「環境への取り組み」と題して第39回静岡コロキウムが開催された。

会場は、旭化成の新たな事業再編の中、生産拠点から研究拠点としての機能を強化した富士支社の皆様のご厚意により開催させて頂いた。このことも寄与してか、年度末を控えご多忙の中、44名もの参加が得られた。

第1部では、飯塚会長のご挨拶に引き続き、環境関連の3題のご講演を頂いた。1件目は、旭化成ケミカルズのマイクローザテクニカルマーケティング部 橋本知孝氏による「旭化成ケミカルズの水処理用膜モジュール紹介」と題し、旭化成が製品化されている限外ろ過膜(UF)、精密ろ過膜(MF)の機能、特徴、応用例をわかり易くご説明頂いた。特に橋本氏が直接開発に携わられた活性汚泥法にて排水処理されている中に中空糸膜を投入し、清浄化水を排出するMBR(Membrane Bioreactor)、さらにシンガポール NEWaterで採用された下水の3段階処理による上水への転用技術には驚嘆の声が上がった。

2件目は、会場に近隣にするポリプラスチックス研究開発本部の西 芳夫氏より「環境を考慮したエンジニアリングプラスチック技術」と題し、高機能を維持しながら天然繊維を取り入れる原料面からのアプローチ、多様なバイオ燃料に対応したエンジニアリングプラスチック技術など、応用面からのアプローチなど、様々な角度からの環境技術への取り組みがわかり易く紹介された。

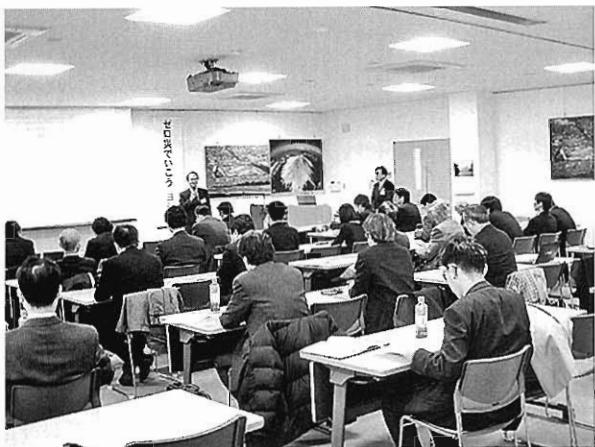
3件目は、当地、富士商工会議所が主催しているバイオマス研究会の研究開発部門で貢献されている静岡大学農学部の徳山真治氏から「未利用バイオマス資源としてのペーパースラッジの可能性」と題し講演頂いた。富士市からは年間120万トンに及ぶペーパースラッジが排出されているものの、その大部分は焼却処分されている現状から、そのセルロース資源を酵素処理により糖化する試みと成果とが発表された。開発途上であるものの、大きな可能性を感じるご講演であった。

その後、富士支社内のヘーベルハウス研究所を見学させて頂いた。地震や台風、極寒など様々な条件での住宅の安全性、耐久性、快適性を追求する最新の研究施設に加え、建築後数十年が経過し、建て替えとなつた初期のヘーベルハウスを研究所敷地に移築されるなど、これまでの製品についての推移を科学する姿勢やアフターケアへの研究など企業としての見事な志を感じる施設見学会であった。

懇話会恒例の第2部懇親会は、これまた旭化成様のご厚意により美しい社員食堂にて開催させて頂いた。すでに周囲は闇が覆っていたが、会員の懇親の盛況振りに、熱気と明るさを感じる交歓の場となつた。

最後に、本コロキウム開催に際し、多大なご支援を頂いた旭化成(株)富士支社の方々に深謝申し上げます。

(文責 沼津工業高等専門学校 蓮實 文彦)



平成 22 年度事業計画

主催行事：

(1) 役員会、総会

日 時：平成 22 年 5 月 28 日（金）

会 場：矢崎資源株式会社ガス機器開発センター（浜松市）

内 容：事業・会計報告及び承認。事業計画・予算案の審議及び決定

(2) 第 40 回静岡コロキウム、見学会

日 時：平成 22 年 5 月 28 日（金）

会 場：矢崎資源株式会社ガス機器開発センター（浜松市）

内 容：講演会、見学会

(3) 第 18 回静岡フォーラム／第 43 回研究交流セミナー

日 時：平成 22 年 10 月

会 場：未定

内 容：講演会

(4) 第 19 回企業技術交流会

日 時：平成 22 年 12 月上旬

会 場：未定

内 容：講演会・見学会（企業からのシーズ提供、学生への PR 等）

(5) 第 41 回静岡コロキウム

日 時：平成 23 年 1 月下旬

会 場：未定

内 容：講演会・見学会

出版事業：

(1) 第 18 号会報発行（平成 22 年 5 月 28 日）

共催・協賛・後援行事：

(1) 第 13 回「リフレッシュ理科教室」

主 催：社団法人応用物理学会、浜松市教育委員会、浜松科学館

日 時：平成 22 年 5 月 28 日（金）、29 日（土）

会 場：浜松科学館（浜松市）

(2) 固液分離技術講座

主 催：化学工学会分離プロセス部会、化学工学会東海支部
日 時：平成22年6月11日（金）
会 場：名古屋市工業研究所

(3) 第34回基礎化学工学演習講座

主 催：化学工学会東海支部
日 時：第1コース 平成22年6月16日（水）から18日（金）
第2コース 平成22年6月23日（水）から25日（金）
会 場：名古屋市工業研究所（名古屋市）

(4) 静岡大学サテライト講座

主 催：化学工学会人材育成センター
日 時：化学物質・化学反応・単位操作の安全 平成22年9月27日（月）、28日（火）
大気汚染防止・廃棄物処理とリサイクル 平成22年9月29日（水）、30日（木）
場 所：アクトシティ浜松 研修交流センター（浜松市）

(5) 第89回講演見学会

主 催：化学工学会東海支部
日 時：平成22年9月
会 場：未定

(6) 第43回研究交流セミナー

主 催：化学工学会東海支部
日 時：平成22年10月
会 場：未定

(7) 第44回化学工学の進歩講習会

主 催：化学工学会東海支部
日 時：平成22年11月11日（木）、12日（金）
会 場：中部大学名古屋キャンパス（名古屋市）

(8) 富士山麓アカデミック&サイエンスフェア 2010

主 催：富士山麓アカデミック&サイエンスフェア実行委員会
日 時：平成22年12月
会 場：未定

その他：

- (1) 静岡化学工学懇話会 25周年記念大会
日 時：平成29年予定

元会長 吉永勝也 様 逝く

元会長の吉永勝也様には、お元気にお過ごしのことと存じ上げておりましたところ、平成20年1月13日に永眠されたとの訃報がございました。

吉永様には、本会において、第2代会長（平成6年度、7年度）に就任いただき、本会の運営と発展に多大のご尽力を賜りました。

ここに本会の名において氏のご冥福をお祈り申し上げ、その偉大なご業績に対し、心から尊敬と感謝の念を捧げ、謹んでご冥福をお祈りいたします。



会員企業ルポ

15th

株式会社 太洋サービス

(面会者) 専務取締役 鈴木 啓嗣 氏
常務取締役 鈴木 裕司 氏

会員企業を訪問し、事業活動の様子を取材させて戴き、ご紹介するコーナーです。今回は、浜松市西区にあります株式会社 太洋サービスを訪ね事業概要や化学工学との関わりなどをお聴きました。

1. 事業概要は?

当社は、廃棄物の収集・運搬・処分一式を扱っています。対象廃棄物は、廃油、廃プラスチック類、ゴムくず、木くず、金属くず、燃えがら、動植物性残渣、汚泥、ガラスくず、陶磁器くず、建設廃材、ダスト類です。関連して各種ピット、タンク類の清掃、工場の排水処理施設の汚泥処理や配管清掃も実施しています。回収汚泥量はスラリー状で

1ヶ月当たり 1000 t 以上、処理後最終処分場へ運ぶ分が 500 t くらいです。

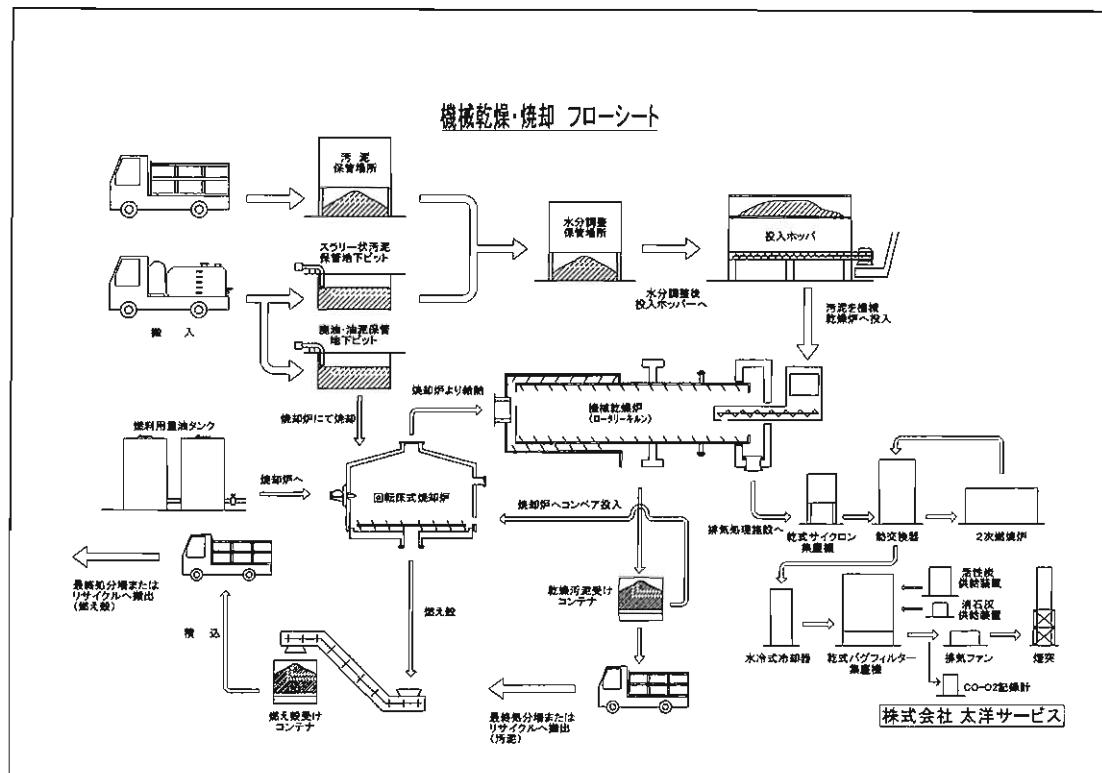
また、グループ会社の (有)浜松油化では廃油のリサイクル事業をしています。廃棄物処理事業においても如何に低コストで処理出来るかが勝負です。月に 80 t から 100 t の回収廃機械油について、社内で遠心分離処理を行って水・油・スラッジに分離します。回収油は、再生重油として水を除いた分の 95%が活用でき、残り 5%がスラッジです。

営業範囲は、西は豊橋市、東は静岡市清水区までを対象としています。



鈴木裕司氏

鈴木啓嗣氏



2. 化学工学の活用面は？

スラリー状で回収した汚泥は、脱水・乾燥を経て最終処分場へ運びます。また、油は遠心分離に掛け油水分離を行います。化学工学の技術としては、極めてオーソドックスなものです。

また通常は扱っていませんが、特定の工場から排出される特定有害物質についても処理認可を得ています。更にオイル流出事故などについては、オイルフェンスでせき止めて回収作業を行いますが、これに関しては行政からの緊急連絡先として登録されています。

3. 今後の取り組みは？

当社の全工程を備えた新工場を平成24年に完成するよう企画しています。工場敷地面積は、18,000m²です。焼却炉の能力を大きくして、この熱源を濃縮・乾燥・加温工程に利用する予定です。

新しい取組みとして、焼却炉の排熱が大きいことに着目し、通常の水処理では行われていない濃縮・蒸留を行い、ここで出来た蒸留水を焼却炉の冷却水として利用することを考えています。更に浜松市では廃棄物処理施設が不足しており、相当な割合で処理を市外に依存している現状です。例えば医療廃棄物の8割以上が市外です。これを新工場では処理できるように考えています。そうすると注射針は、金属材料として回収が可能になります。

当社のコンセプトは、「リサイクル出来ないものを請け負う」です。このため、新工場には研究施設を設けます。工場自体には太陽熱利用を導入しますし、焼却炉の排熱を利用しての研究施設として大学との共同研究実施も視野に入っています。例えば何百度という高温の部屋を用意できますので、これを使った研究が可能となります。



焼却炉外観

これまで本コーナーでは、製品を作る企業をご紹介していましたが、今回はそういう企業から排出される廃棄物処理について伺うことが出来、また化学工学技術のダイナミックな活用場面に接し大変有意義でした。コスト低減を図るために回収オイルのリサイクル活用や焼却炉の排熱活用に努め、更に新たな処理技術に挑むなどチャレンジ精神の旺盛さを感じられました。同社の一層の社会貢献とご発展をお祈り申し上げます。

リポーター：幹事 河合文雄

静岡化学工学懇話会ホームページのご紹介

静岡化学工学懇話会のホームページではコロキウム、フォーラム等の各種行事の告知のほか、会報のバックナンバーの閲覧や各種行事への参加申込みが可能となっております。是非ご覧下さい。

URL : <http://cheme.eng.shizuoka.ac.jp/~cess/index.html>

懇話会事務局のメールアドレスもございます。各種行事へのお問い合わせや参加のお申込み、懇話会へのお問い合わせにご利用ください。

懇話会事務局 E-mail : cess@cheme.eng.shizuoka.ac.jp

ホームページに関するご意見やご要望などがございましたら、是非事務局宛にお知らせ下さい。

法人会員の皆様に本会ホームページからのリンクをお願いしております。よろしければ、事務局宛にリンク先 URL をお知らせ下さい。

静岡化学工学懇話会

静岡化学工学懇話会は

平成4年に静岡県地区での産官学の交流の促進と活性化を目的に設立されました。
化学分野の業種に限らず、機械、電気、材料、エネルギー、環境、食品、情報など広範囲の
分野での交流を期待しています。

年間4～5回程度の講演会等を開催しております。是非ご参加ください。

4/11 update

講演会等のご案内

Web上での参加申し込みができます。

お問い合わせ

(三保の松原より富士を望む)

PDFファイルのご利用にはAcrobat Readerのプラグインが必要です

お問い合わせ

静岡化学工学懇話会事務局
〒432-8561静岡県浜松市中区城北3-5-1
静岡大学工学部物質工学科化学生システム工学科内
e-mail : cess@cheme.eng.shizuoka.ac.jp
tel: 052-478-1183 fax: 052-478-0095

Powered by APOLLO

懇話会ホームページ（トップページ画面）

(静岡大学 前澤昭礼)

入会のご案内

静岡化学工学懇話会は平成4年に静岡県地区で産官学の交流の促進と活性化を目的に設立されました。化学分野の業種に限らず、機械、電気、材料、エネルギー、環境、食品、情報など広範囲の分野の交流を期待しています。

規約は懇話会ホームページをご覧下さい
会費は、現在以下の様になっています。

法人会員：年額 20,000円

個人会員：年額 2,000円

但し、化学工学会の維持会員、特別会員および正会員の会費は免除する

年間の事業内容は、講演会、講習会、見学会などの事業、会員相互の技術指導・相談の斡旋、学会および研究会との交流、および調査研究、情報の収集・提供など活発な活動を計画しています。

設立の主旨および規約にご賛同していただき、ぜひともご入会をお願い致したく、ご案内申し上げます。

申込先：

〒432-8561 浜松市中区城北3-5-1

静岡大学工学部物質工学科化学システム工学コース内

静岡化学工学懇話会事務局

TEL：(053) 478-1188

FAX：(053) 476-0095

E-mail : cess@cheme.eng.shizuoka.ac.jp

会費の振込先が、下記の通りです

スルガ銀行 浜松追分支店 普通預金

口座番号 1481354

名義人 静岡化学工学懇話会

ご入会の申込書を事務局まで FAX または郵送にてお送り願えれば、折り返し請求書をお送りします。

静岡化学工学懇話会

法人会員 入会申込書

静岡化学工学懇話会の趣旨に賛同し、下記のとおり法人会員として入会を申込みます。

申込年月日	平成 年 月 日	
会社名または事業所名		
会社代表者または事業代表者		
連絡担当者	氏名	印
	部署	
	役職	
	連絡先住所	〒 TEL : FAX : E-mail :
化学工学会における会員資格	<input type="checkbox"/> 特別会員 · <input type="checkbox"/> 維持会員 · <input type="checkbox"/> 非会員	

※上記情報は、静岡化学工学懇話会が関係する行事の案内や連絡のみに使用します。

静岡化学工学懇話会

個人会員 入会申込書

静岡化学工学懇話会の趣旨に賛同し、下記のとおり個人会員として入会を申込みます。

申込年月日		平成 年 月 日	
申込者氏名		印	
連絡先	自宅の場合	住 所	〒
			TEL :
			FAX :
			E-mail :
	会社名	会 社 名	
		部 署 名	
		役 職	
	勤務先の場合	住 所	〒
			TEL :
			FAX :
E-mail :			
化学工学会における会員資格		<input type="checkbox"/> 正会員 (会員番号) · <input type="checkbox"/> 非会員	

※上記情報は、静岡化学工学懇話会が関係する行事の案内や連絡のみに使用します。

<編集後記>

昨年の総選挙の結果、長年続いた自民党系政権から民主党政権へと変わり、良い方向へ大きく変化することが期待されたが、未だ景気が大きく変化することではなく、厳しい日々が続いております。このような状況であるにもかかわらず、コロキウム、フォーラム、企業技術交流会といった行事は盛会に行われました。ひとえに、企画、遂行してくださいました諸幹事の皆様と会員の皆様のおかげであります。ここに皆様に深く感謝の意を申し上げます。今後も会員相互の情報交換や懇親の場として本会が発展を続けていくことを願っております。

(静岡大学工学部 前澤昭礼 記)

静岡化学工学懇話会会報
〈第18号〉

発行／平成22年5月28日
静岡化学工学懇話会
会長 須藤雅夫
〒432-8561 浜松市中区城北3-5-1
静岡大学工学部物質工学科
化学システム工学コース内
TEL (053)478-1188
FAX (053)476-0095
制作／静岡化学工学懇話会
(有)ホープ・マネジメント
TEL (053)430-4239
FAX (053)430-4238